

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 4/15 }
令和6年(2024年)
No.2376

“音”で本を読むこと
をサポートします！

区の図書館には、視覚障害のある方が音声で読むための本「デジタル録音図書 (DAISY資料)」や対面朗読サービスがあることをご存じですか？
これらを支えているのは、専門の養成講座で技術を身に付け、活動する「図書館音訳等ボランティア」の皆さんです。本の録音図書製作や対面朗読の活動について、お話を伺いました。

特集

大
すぎなみビト

障害者の読書活動支援

図書館音訳等ボランティア



〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右二次元コード)をご覧ください。



デジタル録音図書 (DAISY資料)

どんな表現であれば伝わるのか、丁寧に考えながら音訳は作られます



CASE 1 本間さんの場合

—音訳等ボランティアを始めた経緯を教えてください。

私は学生時代に演劇をやっていたので読書も好きだったので、初めて朗読のボランティアの存在を知ったときは、すぐに興味が湧きました。そこで、基礎を学ぶためにカルチャーセンターで講座を受け、その後図書館で実践に入りました。平成元年当時、地元の杉並区で「杉並朗読ボランティアの会」(以下、杉朗会)を結成することになり、活動を始めてから今年で35年になります。

—音訳作業に当たることになったきっかけは何ですか？

杉朗会の結成後、図書館から「録音図書を作ってほしい」と依頼されました。最初に取り組んだのは文芸誌。当時はカセットテープに声を吹き込む形の録音作業で、少し修正するのにもとても手間がかかりました。アナログ作業の時期が長かったのですが、平成19年に思い切ってデジタル化しようと決めて、私自身がまず録音ソフトを使っての作業を試してみたいです。アナログ作業に慣れていたので最初は仲間達もためらっていましたが、最終的にはみんなが理解して取り組んでくれたおかげで、今は完全にデジタルでの作業に切り替わり、データのファイル送信も取り入れてずいぶん効率化できました。世代の異なる仲間同士でそれぞれが知識・知恵を出し合い、理解し合うからこそ、活動を続けていられると感じています。

—現在、音訳の活動としてどのような取り組みをされていますか？

杉朗会で担当しているのは、月刊の論壇誌の音訳です。毎月最新号を、広告も含めて丸ごと約250ページ分、分担して音訳しています。それを翌月の発売日には図書館に納品するというスケジュール。締め切りがある



区の図書館では、障害者の読書活動支援として図書館資料を読むことが困難な方に向けた、デジタル録音図書(DAISY®資料)や対面朗読などのサービスを提供しています。

このDAISY資料の製作や対面朗読を担っているのが、音訳者の養成講座を

本間 瑩子

プロフィール：本間瑩子(ほんま・えいこ)「杉並朗読ボランティアの会」の平成元年結成時より、音訳等ボランティアとして活動。70歳になるまでの約25年間同会の会長を務めた。現在も月刊誌の音訳作業、中央図書館における対面朗読に励んでいる。

ので大変ではありますが、自分の知らない世界を学べて向上心が刺激され、うれしさも大きいです。中でも難しいのは、論壇誌なので図表が多いこと。視覚障害のある方が音で聞いて理解できるように図・グラフを言葉で説明するのは、なかなか苦戦しますね。内容が論壇なので、感情を出さないようにしつつ、聞いている人が楽しめる読み方にするための工夫も必要です。

—活動の中で特に印象深く記憶に残っている出来事はありますか？

長く続けてきた中で、特に達成感を感じた活動があります。それは平成26年にスタートした、ヤマザキマリさんと、みきさん共著の劇画「プリニウス」の音訳。劇画で、なおかつ古代ローマの物語。原稿を作るにはきちんと下調べをして、知識を入れた上で取りかからなければなりません。どんな表現にすれば最適な形で劇画が伝わるのか、音訳の校正担当者とは何度もやりとりをして修正を繰り返しながら、丁寧に推敲していきました。1話40分ほどの音訳を仕上げるのに、毎回3~4日かかっていて、初回から最終話まで10年かけてやり遂げたときは、とても感慨深かったです。



—これまでの活動を振り返り、この活動の魅力は何だと感じますか？

誰のためでもない、自分自身の成長や学び、活力につながるのが、この活動の最大の魅力だと思っています。今、音訳等ボランティアの人数は減ってきており、私も元気なうちは続けていきたいと考えていますが、ぜひ次の世代が育ってほしいと強く願っています。

障害者の読書活動支援

図書館音訳等ボランティア

修了した図書館音訳等ボランティアの方々です。活字の印刷物だけではなく、写真・絵・図などもボランティアの言葉で音訳し、読み手へ伝えます。

※Digital Accessible Information System (アクセシブルな情報システム)の略称。障害により印刷物を読むことが困難な方のための、CDに録音された資料。

榛葉 千津子

プロフィール：榛葉千津子(はしば・ちづこ)アナウンサーとして勤めていた大阪のラジオ局を退職後、転入先の杉並区で朗読ボランティアの道へ。平成元年より「みどり会」に入会し、現在に至るまで、音訳作業、対面朗読で活躍している。

CASE 2 榛葉さんの場合

—音訳等ボランティアを始めた経緯を教えてください。

もともと大阪のラジオ局でアナウンサーをしていましたが、結婚を機に仕事を辞めて杉並区に引っ越してきました。あるとき、アナウンサー時代の先輩が朗読ボランティアをやっていると聞いて、読む仕事なら私にもできるかもしれないと思い、都の講習会を受けたのがきっかけです。その後、区の中央図書館で活動する音訳ボランティア団体の「みどり会」に入会しました。読むならできる！と思って始めたものの、最初のころは全然うまく読めなかったんですよ。でも仲間との活動がとても楽しくて居心地もよくて、何より「声に出して読むこと」がすごく面白かった。その楽しさに魅了されて、ここまで続けてこれたと思っています。

—現在、対面朗読の活動としてどのような取り組みをされていますか？



対面朗読ボランティアとしては、週1回、利用者さんが選んだ本を、中央図書館で朗読するという活動をしています。声に出して読むという点は音訳と同じですが、対面朗読は初見で読まなければならないので、例えば分からない漢字が出てきたらその場で調べなければなりません。その点は、今はスマートフォンがあるので、ずいぶん便利になりました。

もっと知りたい！
当日の「こぼれバナシ」を掲載！
紙面に掲載しきれなかった内容などを、区ホームページ(右2次元コード)で紹介しています。

対面朗読サービス

声に出して読むことが好きなら、きっとやりがいを持って楽しめます



—対面朗読ならではの難しさ・楽しさは、どんなところですか？

利用者さんが選ぶ本は必ずしも物語とは限りません。例えば、以前俳句の本を読む機会がありましたが、俳句自体が身近でない上に、旧字や現代では使わないような言葉が出てきました。なじみのない分野の本に苦勞することはありますが、そんな中でも利用者さんと「この言葉にはこんな意味があるんですね」などとコミュニケーションを取れるのは、対面朗読ならではの楽しみです。音訳においては、利用者さんと接点を持つ機会がなかなかないので、対面朗読の時間はとても貴重だと思っています。

—音訳等ボランティアを目指す人にメッセージをお願いします。

活動をしている中で強く感じるのは、自分自身が読む作業を面白がっていないと、やはり相手には伝わらないのだということ。言い換えれば、声に出して何かを読むということが好きなら、誰にとってもやりがいのある活動になり得るのではないかと考えています。チームで活動すれば、お互いに聞き合いながら質を高めていくこともできます。声に出して読むことが好きな方、少しでも興味のある方は、ぜひ挑戦してみてください。

参加者募集

図書館音訳等ボランティア講座

図書館音訳等ボランティアとして活動するための発声・発音・アクセントなど音訳の基礎や、文意・図表などの伝え方を実技で学びます。

期 6月20日~8月8日の毎週木曜日、午前10時~正午(計8回) 場 中央図書館(荻窪3-40-23) 区内在住・在勤・在学でパソコン操作ができる方 定 20名(選考。5月下旬に面接を実施) 詳細は、すぎなみ地域大学ホームページ(右下2次元コード)・募集案内(駅広報スタンド、区役所、区民事務所、図書館などで配布)参照▶申込期限=5月6日 問 地域課すぎなみ地域大学担当☎3312-2381

